

活動情報

問合せ先

TEL 0948(23)4154

FAX 0948(29)4866

e-mail iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 畜産係

第33号



酪農家の新たな乳房炎対策への取り組み —管内初のコンポストバーン—

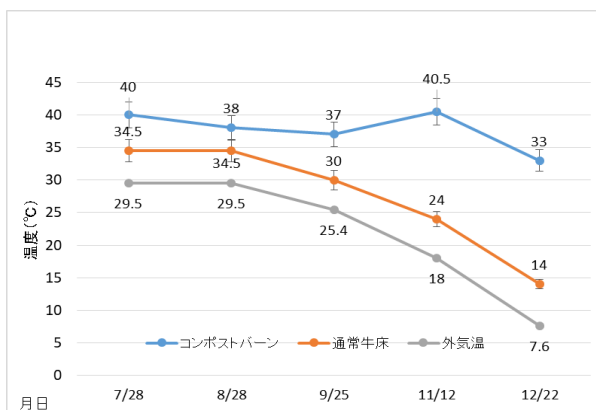
酪農では、乳価の高い夏場の出荷量が所得に大きく影響します。しかし、夏は暑熱の影響で牛の体力が低下する上、牛床の大腸菌増殖が活発になり、弱った牛の乳頭に大腸菌が侵入した場合、乳房炎という病気を発症します。乳房炎に罹ると乳質が低下し、生乳を出荷できなかったり、病状が重い場合は、牛が死んでしまい酪農家にとっては大打撃となります。この乳房炎の抑制対策として、牛床を毎日攪拌することで牛床自体を堆肥化し、床面温度を上昇させ、大腸菌の増殖を抑制する「コンポストバーン」にフリーバーンの酪農家が、管内で初めて取り組みました。

コンポストバーンの牛床内部温度は、年間を通じて通常の牛床よりも高い温度を維持しましたが、牛床の水分含有率が内部温度に影響し、水分含有率68～70%の時に最も内部温度が高くなりました。現状では、乳房炎の抑制効果は明確にはなっていませんが、病気による廃用頭数が半減したことから、生産者は、以前よりも牛の状態が良くなっていると感じておられました。ただ、コンポストバーンを良好な温度で維持するためには、水分調整材経費の負担が大きく、水分調整のための安価な副資材確保や白土等の効率的な発酵促進剤の併用による経費削減が課題となっています。

普及指導センターは、これからも安定した酪農経営のため、支援を継続していきます。



コンポストバーン牛床
(ロータリーで攪拌)



牛床内部温度の推移